

平成 29 年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	19	学校名	天竜特別支援学校	記載者	大橋早苗
------	----	-----	----------	-----	------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
安心安全	児童生徒理解の上に立った、人を大切にす る授業実践と生徒指導、安全管理。	各研修を児童生徒理解と授業づくりに役立てた教員 100%	B	C	・教職員の評価アンケートの結果が良い数値であっても重大事故が起きたのなら、評価は、CかDにすべきである。
		学校が安心して過ごす場所であると答える児童生徒 100%			
児童生徒の理解が深まり、校内事故0にする。					
情報モラルに対する理解が深まったと答える児童生徒 100%					
	地震対応行動(避難、保護、引渡し)の確立。	マニュアルに基づいた避難や引渡し訓練ができたと答える教員 100% 引渡し方法が分かりやすいと答える保護者 100%	A	A	・病院と厚生会と協力して防災訓練ができるとよい。
指導充実	短期在籍児童生徒及び未学習の児童生徒への学習指導と保護者への支援体制の充実。	未学習や特性をふまえた指導案の作成と実践ができた教員 100%	B	B	・保護者や児童生徒に対するアンケート結果の分析方法の検討を要する。「よい。」「悪い。」のどちらも書けない場合もあるのでアンケートのとり方も再考すべきである。
		学習に対する意欲や興味が高まったと答える児童生徒 100%			
		I C T機器の活用が昨年度より増えた教員 95%以上			
		作成した個別の教育支援計画を理解し協働内容を実践できたと答える教員と保護者 100%			
		学校や子どもの様子がよく分かったと答える保護者 100%			

	豊かな表現力を引き出す重度重複障害児童生徒への教育の充実。	1・2病棟児童生徒全員の事例研修を実施する。 学習会で学んだことを生かして子どもの表出を引き出した教員 100%	A	A	・1・2病棟の保護者からのアンケートのコメントがよいものばかりである。
地域連携	個別の教育支援計画を根拠とした連携体制の確立。	病院・保護者・原籍校・本校の役割分担を明記した個別教育支援計画を作成した教員 100%	B	B	<ul style="list-style-type: none"> うまくいかなくなったとき、どの機関がどう支えるのか、学校が把握していることが大事。 失敗したときどのようにすべきか保護者や関係機関が分かるようにしておきたい。
		個別の教育支援計画を基にしてスムーズな移行ができた児童生徒 100%			
	みゅうの丘協議会と連携した、特色と魅力のある学校づくり。	(高)厚生会、病院での学習、実習年間 30 回以上 (小中)みゅうの丘の資源を活用した学習、活動の実施 5 回以上 「みゅうの丘講座」等の共同開催 1 回以上	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 高等部卒業後の就労先として直接社会に出るのではなく、みゅうの丘の中にワンステップがあるとよい。
高等部入学選考のあり方の検討と試行へのみちすじづくり。	検討委員会を開催し、あり方の試案を作成する。	C	C	<ul style="list-style-type: none"> 高等部の普通科のカリキュラムでは労働体験が少なくなってしまう。社会とのギャップを埋められるとよい。 	